



同意

- ◇教育委員会委員の任命
厚真町教育委員会委員に長門茂明さん(鹿沼)が任命されることが同意されました。
- ◇自治功労表彰
元厚真町消防団長の木村幸一さん(朝日)の自治功労表彰が同意されました。
- ◇自治功労表彰
元厚真町都市計画審議会委員の高橋茂さん(宇隆)の自治功労表彰が同意されました。

議案

- ◇厚真町災害対策本部条例の一部改正
- ◇厚真町職員の育児休業等に関する条例の一部改正
- ◇厚真町生活会館条例の一部改正
- ◇厚真町スポーツ施設設置条例の一部改正
- ◇厚真町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正
- ◇厚真町野営場設置条例の一部改正
- ◇厚真町国民健康保険条例の一部を改正する条例の一部改正
- ◇損害賠償額の決定
- ◇豊沢地区大規模盛土造成地滑動崩落防止工事(その4)請負契約の締結
- ◇令和4年度一般会計補正予算(第6号)

報告

- ◇所管事務調査報告(各常任委員会)
- ◇委員会調査報告(北海道胆振東部地震復興特別委員会、新庁舎周辺等整備調査検討特別委員会)
- ◇財政援助団体等に関する監査の結果報告
- ◇定期監査の結果報告
- ◇現金出納例月検査の結果報告
- ◇教育委員会の事務事業の点検・評価報告
- ◇令和3年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率

認定(付託)

- ◇令和3年度厚真町一般会計歳入歳出決算の認定
- ◇令和3年度厚真町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定
- ◇令和3年度厚真町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定
- ◇令和3年度厚真町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定
- ◇令和3年度厚真町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定
- ◇令和3年度厚真町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定

意見書

- ◇国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

議会

令和4年 第3回定例会

令和4年第3回町議会定例会が、9月13、14日の2日間の会期で開かれました。令和4年度各会計補正予算など議案17件、報告7件、同意3件が審議され、いずれも原案通り可決・承認されました。また、認定6件は決算審査特別委員会に付託されて閉会中に継続審査されます。さらに意見書1件が提出され採択されました。

行政報告

▼農作物の生育状況について

【水稲】胆振農業改良普及センター東胆振支所が調査した農作物の生育状況によると、水稲は、は種から移植期まで日照時間は長く、気温は高く推移し、苗の生育は平年並でした。移植作業は平年並に始まり、一部で少雨の影響により代かき作業、移植作業が遅れが出たものの、おむね順調に作業は進み、東胆振全体では5月30日に終了しています。6月上旬～6月下旬にかけて低温寡照で経過したため、活着や分けつが遅れ、生育は遅れました。その後、7月は高温傾向で推移し、冷害危険期の障害等は見られず、出穂期は8月1日と平年より1日早く経過しています。成熟期も平年並と推定されます。

普及センターによる稔実調査では、中苗ななつばしの不稔率は4.2%程度で平年並みからやや低くなっています(平年値7.0%)。農林水産省が発表した8月15日現在の本年産水稲の作柄概要では、北海道は「やや良」となっています。全国では「やや良」が11都府県、「平年並」が24道府県、「やや不良」が11県となっています。なお、東日本を中心とした早場地帯の作柄は、おむね「平年並」から「やや良」と発表されています。9月20日ごろから収穫が始まる見

込みですが、強風等により倒伏が拡大している状況から、収穫作業と品質への影響が懸念される場所があります。

【秋まき小麦】秋まき小麦は、昨秋が温暖に経過し生育量が確保されました。また、積雪量が多かったため、土壌凍結深は浅く融雪水の滞水による凍害はみられず、越冬状況は良好でした。6月上旬から収穫前の7月4半旬まで寡照で、更に7月上旬から3半旬にかけて少雨の中、成熟期を7月16日に迎えました。収穫は平年並みに終了しました。麦は細い傾向で、粗麦重量は平年を下回る見込みとなっています。

8月16日現在の調製状況(厚真地区分)では、秋小麦の受入重量は1385トンで、等級麦は1187トン(約85.7%)を見込んでいます。また、春小麦の受入重量は849トンで、等級麦は594トン(約70.0%)を見込んでいます。

【ジャガイモ】ジャガイモは、植付作業が平年並に進み、萌芽は平年よりやや早い5月14日でした。病害虫の発生は少なく、開花期、茎葉黄変期ともに平年並に進みました。収穫作業は8月中旬から始まり、断続的な降雨で収穫作業は中断しています。7月下旬の坪堀調査では、1株あたりの数は多く、でん粉含量も高くなっています。

【豆類】大豆は、は種が平年並に終了したものの、出芽期ごろの強雨

により除草剤の影響を受けたほ場や、出芽後の低温少雨により、草丈がやや短く推移しました。開花期は平年並の7月15日に迎えています。現在、草丈はやや短く、葉数は平年並、さや数は平年より多くなっています。

小豆は、は種が平年並に終了したものの、出芽期が6月上旬の低温により平年より4日遅れの6月8日となりました。その後、生育は回復し、開花期は平年より2日早い7月23日に迎えています。草丈は長く、葉数は平年並、さや数は多くなっています。

【そ菜園芸】そ菜園芸では、ホウレン草は、春の天候に恵まれ出荷量は安定し、価格は平年並みに推移しました。7月中旬ごろより高温、降雨、日照不足等の影響で、生育障害が発生し、収量は減収していますが、価格は現在やや高値で推移しています。

カボチャは、早出しの作型については、定植後低温となり生育は緩慢となりましたが、7月以降気温も上がり平年並みとなりました。着果も良好で若干小玉傾向ですが、収量は平年並みの見込みです。慣行作型については、定植後の安定した天候で生育・着果・玉回りともに良好です。また、府県の猛暑の影響により荷動きが悪く、物量は少ない状況ですが価格は平年並みとなっています。ブロッコリーは、6月下旬から出

荷が始まり、7月までは安定した出荷が続いていましたが、8月からの長雨等の影響により、軟腐病等が発生し出荷量・製品率が低下しています。7月の価格は道内の各産地が出荷のピークとなりやや安値で推移し、現在は平年並みの価格で推移しています。

花きは、春の天候も良く生育はおむね順調に進み、病害虫の発生も少なく品質もおむね良好で推移しましたが、前進出荷となり草丈は短く製品率は低下しています。価格は為替の影響もあり輸入品の入荷が少ないことや、需要が回復してきたこともあり、7月、お盆の需要期以降もやや高値で推移しています。

ハスカップは、大雪による枝折れや5月下旬からの低温、裏年等の条件が重なり、花芽も少なく不作傾向となり、更には収穫直前での暴風雨により果実が落果するなどの被害もあり近年にない減収となりました。近年、大きな気象変動が続いています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と長期化により、昨年に引き続き農作物価格の下落や輸送経費負担の増加など、農業経営にも影響が出ています。これらに的確に対応できるよう関係機関と連携して対応するとともに、収穫作業の最盛期を迎えるにあたって、農作業事故に十分注意されるよう生産者への呼びかけを強化します。